

2026_0302「実は2匹だったムササビの子」日々の理科 4222号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北軽井沢に設置されたフクロウ用巣箱では、この冬に生まれたムササビの子どもが観察されています。当初は1匹だけと思われていましたが、観察を続けるうちに2匹いることが分かりました。昼間の巣箱内では、母親ムササビと前年夏に生まれた子、そして冬生まれの2匹の子どもたち、合計4匹が寄り添って過ごしています。

夜になると母親と夏生まれの個体は餌を求めて森へ外出し、巣箱には冬生まれの幼い2匹だけが残ります。暗い巣箱の中で身を寄せ合いながら親の帰りを待つ姿は、野生動物の静かな暮らしを感じさせる光景です。限られた空間の中で家族が役割を分けて生活している様子がよく分かります。

以前の営巣では巣箱の床が落ちてしまうトラブルがありましたが、その後しっかり補強が施されました。今回の子育ては安心して見守ることができそうです。これから成長とともに動きが活発になり、やがて巣立ちへ向かう過程を観察できるのが今から楽しみです。

(2026年3月上旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

